

The Chronological Table of Literary report in Hokkoku News Showa No. 5

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/463

『北國新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇⑤)

The Chronological Table of Literary Report in Hokkoku News (Syowa No.5)

Eichi MORI

森 英一

この年表は本紀要第三十七号(昭和63・2刊)の『北國新聞』文芸関係記事年表稿(昭和篇③④)を承けるものである。調査に際して、高木ともえ、中居望両氏の協力を得た。金沢大学附属図書館所蔵のマイクロフィルムを使用した。

昭和二十年

- 9 5 詩「新しき日を思ひ」堀内助三郎
7 北國俳壇の新聞者に白山氏(☆記事)
10 「津幡俳壇句会抄」(☆10句)
12 「芦城俳壇句会抄」(☆8句)
15 「杉山元帥の夫人の霊に捧ぐ」(☆短歌3首)江戸さい子
17 「文化片々」(☆コラム、七尾俳句連盟句会案内)
19 「寂秋吟」(☆歟汀子5句、良吉5句)
22 「観月句会記」(17句、紅葉、物外、月右他2名)
25 小説「犬と友情」毛藤松声居
28 「各地観月句会抄」(☆8句)
29 「俳句のこれから」井村青樽
◇ 「新生」(☆短歌5首)飯塚銀次
- 10 1 婦人の俳句を募る(☆記事)
◇ 「虫しぐれ」(☆俳句8句)大森如山
5 「七尾交歓俳句会抄」(☆10句)
9 小説「秋の空」吉田余三男
10 「秋深む」(☆短歌5首)毛藤一雄
13 「天の川」(☆俳句5句)戸水緑靈史
15 「あつき涙」(☆短歌6首)暁鳥敏
◇ 「作者の言葉」(☆次回小説予告、村上元三作、高光一也絵)
16 「各地句会抄」(☆7句)
17 「草の秋」毛藤松声居
◇ 「供出米」(☆短歌5首)神田茂雄
19 「芦城俳壇吟行会」(☆7句)
20 「俳句5句」大森積翠、山本梅幢
◇ 小説「港」村上元三 昭21・2・12 全67回完
25 「作の思ひ出」門野高子
◇ 「近詠8句」浅野白山、守友一秋
27 「芦城俳壇十月句会」(☆4句)
30 「婦人俳句」(☆7句)
11 8 「磯の畑」(☆短歌5首)岡部文夫

- 8 「釣り八句」西尾舷朶子
11 「晩秋」(☆短歌5首) 大石太郎
現代俳文学大会開催(☆記事)
12 「現代俳文学大会献詠抄」(☆8句)
18 「越野黙歩君を悼む」網村流水
22 「草鞋」黒田義男
「民のこころ」窪田敏夫
「現代俳文学大会」浅野白山選 25日 2回完
12 2 金沢の「鎌倉文庫貸本部」(☆記事)
「貸本屋閑談」並木行夫
「やまびこ文庫」について 小島甫
10 「牛と蛙―漱石忌を迎へて―」吉田六郎
16 「偉大なりし哲人」暁鳥敏
19 「綿の思い出」門野高子
「虚栄」水声光子
23 「み冬づく」(☆短歌5首) 佐久間五月
詩「怒多し」松崎茂夫
- 昭和二十一年
- 1 1 「新春譜」(☆俳句6句) 塩田紅果
「庵の春」(俳句5句) 浅野白山
「初日影」(☆短歌5首) 大石太郎
「元旦にうたへる」(☆短歌5首) 江戸さい子
「新春随想」林屋亀次郎
6 「新年随想」楠田敏郎
16 「寒椿」(☆短歌4首) 嵯峨通夫
「八ッ手」(☆俳句5句) 安養日翠
- 16 「千柿放談」藤田福夫
17 「風と共に去りぬ」赤井米吉
「すきまかぜ」(☆俳句5句) 黒田桜の園
20 「金沢の野鳥」前田勳
「私の名刺」正見二郎
「口細鯉」(☆短歌5首) 岡部文夫
24 「最近の出版界」並木行夫
31 「人間の実質」について―文学者の戦争責任― 山本三郎
「解放戦線の女」(☆短歌6首) 門野高子
2 3 「寒たまご」(☆俳句6句) 南北城
7 「生れた文化会」田部重治
「ふるさと」(☆短歌5首) 佐久間五月
14 「世情輻晦」(☆短歌4首) 木津螢雪
28 「小倉百人一首と民主性」小柴値一 20日 2回完
「感懐」(☆短歌3首) 富田喜作
4 8 小説「村はリアカアに乗って」岩倉政治
21 「金沢文化の封建性と民度」吉岡修一郎
5 12 「チェホフと結婚申込」由利恵子
17 今後の文学・婦人生活―来沢した佐多女史(☆記事)
6 4 「五百万円」のもつれ―漱石の著作権をめぐる豪華な印税 (☆記事)
- 7 4 俳人・生駒万子の墓―光専寺境内から発見(☆記事)
26 コラム「著作家も労働組合」
8 26 「出版随想」市村新
11 18 「女人と文学の新しい課題」水声光子
12 16 「読書について」大場清
23 「書物講談」南出勉
「新刊紹介「うちとそと」伊藤武雄著

昭和二十二年

- 1 1 「新春を讀う」(☆俳句5句) 塩田紅果
 〃 「三度目の正月」 室生犀星
 20 「私の注文」 伊藤武雄
 〃 「十円の弁」 伊藤敏夫
 2 3 「自殺随想」 宮田栄
 10 コラム「歌壇のゆくみち」『既成』『新興』にするどいメス
 5 20 「ヒューマニズムについて」 市村新
 〃 「妙成寺」 岡部文夫
 6 16 対談「人間解放とエロチシズム」(☆久米正雄、舟橋聖二)
 23 「性的廃退と人間性」 安藤孝行
 30 「好色文学追放は政治の責務？」 吉田六郎
 7 4 コラム「歌壇の崩壊」 木俣修氏談
 12 「風景と時計」 大仏次郎
 14 鏡花の文学碑きのう起工、廿一日に除幕式(☆記事)
 19 コラム「希望文学」 菊池寛
 21 コラム「鏡花の世界」 久保田正衛
 22 コラム「エロスの内容」 丹羽文雄
 28 コラム「小説の本道」 林房雄
 29 コラム「はだしに就て」 高見順
 8 3 コラム「美しい町」 大仏次郎
 22 コラム「政治家」 小林秀雄
 27 コラム「女の世界」 真杉静枝
 9 1 小説「柔かな年齢」 小島政二郎 昭23・1・16全127回完
 7 コラム「サルトルの文学」 丹羽文雄
 8 コラム「漱石問題」 夏目伸六、久米正雄、伊藤武雄

昭和二十三年

- 10 10 コラム「真贋」 中山義秀
 11 詩「那谷寺」 山瀬利夫
 16 コラム「祭」 久米正雄
 10 6 コラム「民衆の文学」 森山啓
 12 詩「芋莖」 岡部文雄
 〃 「秋」(☆短歌7首) 門野高子
 15 コラム「いやな恨性」 丹羽文雄
 28 コラム「秋山の味覚」 毛藤松声居
 11 17 コラム「鈍銀」の神像 伊藤武雄
 18 幸福つかむためには恋愛も結婚も自由—金沢へ来た四人の作家、広津・康成・義秀・美美子(☆記事)
 21 石川県川柳大会(☆記事)
 24 「詩」 林美美子
 28 コラム「江戸さんの歌集」 上山南洋
 30 コラム「宝くじ随筆」 田中市助
 12 9 コラム「愛の手」 犀川久良子
 12 コラム「小説の面白さ」 大竹正巳
 17 コラム「ともしび」 壺井栄
 20 コラム「森山啓氏の新作」 沢木欣一
 1 1 「戦地の新年」 深田久弥
 〃 童話「幸福の森」 森山啓
 6 「陣懸け」 直江初雄
 〃 詩「一つの物から」 室生犀星
 〃 「新春小吟」(☆短歌4首) 吉井勇
 16 「雪に思う・裸の出版」 宮本三郎

- 17 「花と踊り子」北条誠 3・9 52回完
 「雪に思う・こうもりの計画」伊藤武雄
 「書くことへの情熱」水声光子
 「さまざま」大沢衛
 22 「人間としての横光さん」寺崎浩
 24 「農村生活と文化」森河博
 26 「歴史の前進のために」森直弘
 2 16 「近道はない」山本三郎
 「地方文化と地方主義」石川湧
 27 「感覚の変貌」秋元波留夫
 3 1 「文学と世相」西義之
 「北国俳壇」高木蒼梧選
 6 「北国歌壇」尾山篤二郎選
 7 「春の夢・秋の夢」坪田譲治 6・22 100回完
 10 「作家のつくる雑誌」白井喬二
 13 「前進座の演劇教室」伊藤武雄
 24 「文筆家追放 第二十六十一名（☆記事）」
 30 「戸迷いの青春」南出勉
 4 12 「ゆがめられた姿」野川日出夫
 「石の花」伊藤武雄
 18 「戯曲とシナリオ」鈴木紀子
 19 「映画と演劇」土方与志
 「前田家蔵書の問題」川口久雄
 20 「ローマ字の実験授業をめぐる」佐々木良治
 21 「既成左翼作家の自己反省」岩上順一
 24 「歪曲された愛」吉田六郎
 26 「恋愛の本質」吉岡修一郎
 「ノラと闘う」相馬幸子
 5 9
- 14 「『人形の家』評」伊藤武雄
 16 「短歌と民主革命」渡辺順三
 24 「だれがために―反動文化との闘い」山本三郎
 「空砲ならやめよ」小松伸六
 「一ツの批判」門野高子
 31 「大きな損失―西田博士をしのぶ」小竹文夫
 6 3 「殺人について」寺崎浩
 12 「北陸俳句大会（記事、『北陸俳壇』創刊記念）」
 16 「太宰治氏入水自殺か（☆記事）」
 18 「廿世紀の旗手倒る―太宰治の死」小松伸六
 22 「綱から落ちた軽業師―太宰の死について小松氏へ」西敏明
 23 「文学は米にあらず―西氏に答えて」小松伸六
 26 「ある人生」久保田正衛作、鴨居玲画 7・1 4回完
 7 3 「開かれた扇」佐多稲子 11・20 130回完
 5 「山を恋う」毛藤一雄
 6 「アメリカ映画の面白さ」春山行夫
 「北国柳壇」伊藤柏翠選
 9 「北国俳壇」井上日石選
 11 「能登開発と地理学」金崎肇
 「小説の宿命」田宮虎彦
 13 「じゃが芋の季節」厚見他嶺夫
 18 「夏食物」石崎有信
 20 「夏と小説」深田久弥
 25 「夏と小説」深田久弥
 26 「北国歌壇」尾山篤二郎選
 8 16 「北国俳壇」西村公鳳選
 「夏」の思い出」吉井勇
 17 「室生犀星」水声光子
 23

- 25 「勤労詩の課題」 増村外喜雄
 9 3 「特集平和への意志」 秋元波留夫、秋山英夫
 6 「映画雑感」 西義之
 7 「個性ある服装」 新居格
 8 「文学と浮浪児」 寺崎浩
 9 「婦人と雑誌」 古谷綱武
 19 「句会の思出」 大河寥々
 ♪ 「南瓜の花」(☆短歌5首) 門野高子
 22 今こそ古典の再認識を折口信夫博士来県(☆記事)
 26 「特集教育委員選挙と文化人」 伊藤武夫、佐口透
 ♪ 「砂石」 綱村流水
 10 3 「新聞」 中谷宇吉郎
 4 「音楽雑音」 宮田栄
 ♪ 「映画と音楽」 米田満
 8 「若い女性に」 大沢衛
 10 「文壇展望」 小田切秀雄
 12 「生活の表現としての文学」 西村孝次
 26 「学生の気質について」 窪田敏夫
 27 31欠
 11 7 「地方俳壇の問題」 沢木欣一
 ♪ 「船岡山の炉跡」 鍋木勢岐
 ♪ 「男のおきて」(☆短歌6首) 鴨居悠
 8 「雑誌小説昨今」 小松伸六
 13 「斉藤茂吉とコンデイ少佐」 川口久雄
 21 「月は東に」 下村千秋 24・3・14 105回完
 ♪ 「座談会民主主義文学の問題」 森山啓、岩上順一、加賀耿二
 11 9 「ヘンリー五世」 大沢衛
 11 「犬養健君のこと」 武者小路実篤(☆談話)
- 20 「一九四八年回顧 一般文化」 石川正一
 21 「同右 演劇」 小幡義夫
 22 「同右 婦人」 辻義行
 24 「同右 美術工芸」 吉田彰一
 26 「同右 文学」 山本三郎
 27 「同右 教育」 野川日出雄
- 昭和二十四年
- 1 1 「金沢大学のために」 中川善之助
 3 「流行」 深田久弥
 ♪ 「顔を洗う」 高光一也
 5 「新春清談・故郷とのつながり」 尾山篤二郎
 9 「明星を与えん」 竹田敏彦
 10 「雪・白山権現」 川口久雄
 22 「野蠻とのたたかい」 森山啓
 27 芭蕉の真跡現る―塚も動け―(☆記事)
 2 20 「地方雑誌の宿命」 小松伸六
 27 「晴耕雨読」 浅野白山
 3 3 次の本紙連載小説吉川英治作「続・新書大閤記」(☆記事)
 13 「黄炎」(☆短歌6首) 岡部文夫
 18 「続・大閤記」 吉川英治 10・15 210回完
 ♪ 「作家と話題・豊島与志雄と説話」
 19 「同右・平林たい子と『現実』」
 20 「花と嗅覚」 藤田福夫
 20 「封建性の打破」 深田久弥
 20 「北国歌壇」 尾山篤二郎選(☆19日も)
 ♪ 「北国俳壇」 塩田紅果選

- 5 「座談会金沢の風貌」小松伸六、佐口透、黒田尚文
 「春の歌」(☆短歌6首) 門野高子
 「花もよい」(☆俳句5句) 塩田紅果
 「文華」四月号読後」深田久弥
 「涛々園の早春」(☆短歌6首) 網村流水
 「私の河上博士」和沢昌治
 「映画評『哀愁』と『しのび泣き』」伊藤武雄
 「映画評『哀愁』と『しのび泣き』」伊藤武雄
 「ペンクラブ大会に川端康成氏ら」(☆記事)
 「書評『我が心に鐘は鳴り響く』」西義之
 「郷土雑誌寸評」滝田友生
 「宇治遊草」(☆短歌5首) 江戸さい子
 「北国歌壇」尾山篤二郎選
 「北国俳壇」塩田紅果選
 「森山啓氏の新作―美しいもの醜いもの―」加藤
 「文学座談」深田久弥、岩倉政治
 「春深く」(☆短歌5首) 門野高子
 「探求のころ」(☆短歌5首) 青山兵吉
 「周辺」(☆短歌5首) 佐竹隆
 「初夏」(☆短歌5首) 井幡弥生
 「北国俳壇」田村木国選
 「ブチブル根性のはなし」湯浅芳子
 人気は古川英治もの・図書館でみた当世読書気質(☆記事)
 「暗き照り」(☆短歌5首) 牛丸芳夫
 「初夏・新緑」辰野隆
 「能登に来て」(☆短歌5首) 松谷繁次
 「北国歌壇」尾山篤二郎
 「産児制限と文学」福田裕
 「ロッセの幽霊」小松伸六
- 26 「文芸時評」沢木欣一
 「歌つくり」(☆短歌5首) 乾満寿子
 「北国俳壇」田村木国選
 「青潮」(☆短歌5首) 平野謙一
 「北国歌壇」尾山篤二郎(☆23日も)
 「北国俳壇」浅野白山
 「金沢の作家」(☆談話) 伊藤整
 「金沢弁」(☆談話) 佐多稲子
 「無反応な観客」(☆談話) 村山知義
 「『北国文化』雑感」なかのしげはる
 「ローエルの能登紀行」生島吉造
 「北国歌壇」尾山篤二郎選(☆16・29日も)
 「北国俳壇」萩野六葉選
 「北国俳壇」浅野白山選
 「平和運動の意義」中島健蔵
 「戦後歌壇の動向」坪野哲久
 「半処女」往来」十返筆
 「中国と鬼」石川権二
 「北国俳壇」田村木国選
 「北国俳壇」山本清嗣選
 「文芸時評・森山啓氏の三部作」西義之
 「対談・現代文学をさる」森山啓・深田久弥
 「北国俳壇」杉原竹女選
 「啄木通信」山下久男 10・2 2回完
 「『ハムレット』の印象」大沢衛
 「文芸時評」春山行夫
 小説「花やかな男」尾崎士郎
 「北国歌壇」尾山篤二郎選

- 11 6 「鮎汁読後」吉田圭蔵
 〃 「歌集にひしほ」乾満寿子
 〃 「十一月号『北国文化』」岩倉政治
 13 「たのしい重荷」なかのしげはる
 20 「作家と批評家」青野季吉
 〃 「文芸時評」竹越和夫
 〃 「在村古文書の保存」若林喜三郎
 25 「兼六園に来た」(☆俳句7句)富安風生
 27 「一九四九年の回想・文学」深田久弥、森山啓、岩倉政治
 〃 「東京だより」小松伸六
 12 1 「北国文化12月号」岩倉政治
 4 「一九四九年の回想・歌壇・俳壇」網村流水、沢木欣一
 11 「文芸俗話」桑原武夫
 〃 「講話の基礎条件」青野季吉
 18 「現代詩は第二芸術か」(☆コラム、匿名)
- 昭和二十五年
- 1 1 「元旦」(☆短歌5首)若山喜志子
 〃 「わが新年」(☆短歌5首)吉植庄亮
 〃 「俳句三句」田村木国
 〃 「俳句三句」石塚友二
 〃 「新春」(☆俳句4句)水原秋桜子
 〃 「新春所感」(☆短歌5首)尾山篤二郎
 〃 「虎」深田久弥
 3 「日本文学の運命」小田切秀雄
 〃 「院田夫人」岩倉政治
 〃 「加賀片山津」(☆短歌5首)岡部文夫
- 3 「雲の街」(☆俳句3句)沢木欣一
 5 「たそがれ女護島」小森三千代
 〃 「元旦浅酌」(☆短歌5首)網村流水
 〃 「若草」(☆俳句3句)蔵月明
 6 「先輩の三詩人」森山啓 8日完
 〃 「新春小吟」(☆短歌5首)吉井勇
 〃 「憎まれ子」松原太郎
 15 「新しき文学の誕生」青野季吉
 〃 「古き泉の辺り」石川達三 6・9 全135回完
 22 「新春気絶譚」伊馬春郎
 24 「アメリカ文学ベストテン」並河亮
 2 1 「『闘牛』の芥川賞をめぐる」十返肇
 12 「小林多喜二とその愛人」立野信之
 26 「暁」平山
 3 5 「官能小説の果て」勝本清一郎
 12 「私の東京手帳」小松伸六
 19 「辻政信の戦記」深田久弥
 5 3 「春断想」藤田福夫
 11 「外国語文学の確立」中野好夫
 14 「『母の日』によせて」橋本玉江
 〃 「『母の日』をたたえる」(☆詩)深尾須磨子
 21 「小泉八雲生誕百年」久保田正衛
 6 1 「虚飾」(☆短歌5首)山下文三
 10 「あはれ人妻」林芙美子 11・15 全158回完
 18 「日本文学の世界性」西村通男
 25 「倉桑」内田百閒
 7 1 「韓国の悲劇」小竹文夫
 6 「金閣寺炎上」伊原宇三郎

- 9 「翻訳者の言い分」伊藤整
 「金閣炎上」(☆短歌5首) 吉井勇
 16 「はかなく消えた女囚の胸の灯」宮川うめの
 20 「風鈴」宮城道雄
 「西欧の夏の思い出」片山敏彦
 「秋風嶺の思い出」内村直也
 27 「招かれざる客」の手紙」小松伸六
 8 「散歩」西義之
 1 「逆さの男体」川島理一郎
 5 「八月六日―原爆記念日のために―」阿川弘之
 「馱の広場」沢木綾子
 11 「ウイスキーと女」西敏明
 13 「いぐさの香い」鈴木紀子
 「海を渡るペンマン」小松清
 17 「銭屋五兵衛ゆいて百年」清水九
 20 「実説艸平記」河盛好蔵
 「芥川賞の問題」(☆記事)
 23 「秋葉原にて」谷口隆男
 「妻の靴」加藤勝代
 25 「秋近く」日夏耿之介
 27 「或る女」沢木欣一
 9 「雨を降らす話」中谷宇吉郎
 1 「秋の随筆コオロギ」室生犀星
 3 「紅葉葵」木村莊八
 5 「美と教養」浦松佐美太郎
 8 「秋」堂本印象
 13 「今年の直木賞」猿取哲
 15 「文学と演劇の結末」中村光夫
- 22 「言葉の亡霊」青野季吉
 24 「ニーチェと現代」片山敏彦
 「平塚雷鳥とあつたとき」神近市子
 29 「チャタレイ夫人」と日本の婦人」佐藤さち子
 「チャタレイ夫人」と岡本検事」猿取哲
 10 「文化評論新聞の読書指導」平田次三郎
 6 「秋風の譜」森三千代
 8 「取り入れの秋」伊藤永之介
 11 「新貧窮問答」吉田圭蔵
 13 「うずら渡る」内田清之助
 15 「追放解除の朝」火野葦平
 17 「獺期来る」飛田穂洲
 20 「今の女性」島崎敏樹
 22 「読書の奥義」金森徳次郎
 25 「石川県の珍書奇書」(☆記事)
 「白鳥と勲章」青野季吉
 11 「狂凍死した能登の作家」小松伸六
 3 「朝風遺稿「春蘭記」」久保田正衛
 7 「秋声と現代」加藤勝代
 16 「秋声碑のこと」宮川靖
 「加賀さま」(☆短歌5首) 木野誠夫
 「ひとりの秋」(☆短歌5首) 乾満寿子
 「秋二題」(☆短歌5首) 藤田福夫
 「いろは紅葉」今日出海 4・15 全150回完
 「無風期の底流」勝本清一郎
 21 「岸田国士と獅子文六」猿取哲
 「古瓦行脚」住田正一
 23 「小吟」(☆短歌5首) 岡部文夫

- 28 「雨の音」(☆短歌5首) 長沢美津
30 「氷の甲羅」三石巖
12 7 「病窓新冬」(☆短歌5首) 水上一久
14 「逆張り」住田正一
15 「鳥の色」内田清之助
17 「北国歌壇歳暮感」尾山篤二郎
「にせもの」田中一松
「冬」加賀淳子
23 「狸小説を書きたい」今日出海
24 「退屈な賑やかさ」小松伸六
- 昭和二十六年
- 1 1 「小幡先生の新年」深田久弥
「冬至吟」(☆短歌5首) 尾山篤二郎
「童話日本の子」池田宣政
「暁に叫ぶ」西条八十
3 「波に風」(☆俳句5句) 山田柴子
「私の交友録」大河蓼々
「新春」(☆短歌5首) 川田順
「日本髪」鈴木紀子
5 「新春詠」(☆短歌5首) 岡部文夫
6 「道あり」林芙美子
「私の交友録」網村流水
16 「季節の名花」水仙」牧野富太郎
21 「カナ入文章」吉川江子
23 「作家・藤沢清造のこと」柿谷恒雄
「本年度の文壇に望む」河盛好藏

- 27 「私の交友録」伊藤武雄
2 4 「福沢諭吉翁死後五十年」板倉卓造
11 「きょうの言葉、あすの言葉」室木弥太郎
27 「女性と児童文学」関英雄
28 「大友奎堂氏所蔵の連歌二巻について」密田良二
3 11 「尾山篤二郎氏の歌」藤田福夫
14 「若い人の読書」市原豊太
24 「宮本百合子の『道標』を読む」手塚富雄
27 「戦後の刊行物について」小竹静子
28 「作家と批評家(☆記事)」
4 16 「朝の花」富田常雄 10・18 全184回完
19 「普選行使5周年を迎え」平塚らいちよう
26 「子供の文学教育」関英雄
5 6 「チャタレー裁判に望む」青野季吉
9 「ホトトギス」内田清之助
15 「鏡花八十年祭(☆記事)」
20 「反時代的平和論」青野季吉
22 「尾山氏歓迎会(☆記事)」
27 「新しいもの古いもの」中村光夫
6 10 「中堅作家の活躍」北原武夫
13 「現代歌人に足りぬ文学論争(☆記事)」
17 「古書の移動」殿田良作
7 1 「林芙美子さんを悼む」深田久弥
「作家と批評家との対立(☆記事)」
8 5 「夏休みと読書」市原豊太
15 「白山に登る」深田久弥
23 「今月の文芸雑誌展望」十返肇
9 2 「新選組」村上元三 27・8・11
574 回完

- 19 「正岡子規を憶う」香取秀真
10 2 「御陪食の記」尾山篤二郎
16 「しぶがき」(☆短歌5首) 岡本大無
19 「秋天下」(☆俳句5句) 野本永久
「れい子の道」堤千代 27・4・18 182回完
23 「茂吉の受賞」市田渡
「北国初冬吟」(☆短歌5首) 岡部文夫
28 「無花果」(☆俳句5句) 深田九山
30 「転機に立つ小説」田宮虎彦
11 2 「中国雑詠」(☆短歌5首) 越後進
「晚秋へ」(☆俳句5句) 細見綾子
4 「街空」(☆短歌5首) 水上一久
9 「祇樹林句抄・7句」中野塔雨
11 「拾猫」(☆短歌5首) 北中希代子
13 「落ち葉搔き」(☆俳句6句) 徳光無隠
16 「落葉風」(☆俳句7句) 藤野美秋
27 「喘息的愛情」谷口睦男
12 4 「林さんの死後」宇野千代
23 「五十一年の文壇回顧」青野季吉
28 「創作月評」臼井吉見

昭和二十七年

- 1 1 「野川の水」中川一政
「新年詠」(☆短歌5首) 尾山篤二郎
「コント」親子井 源氏鶏太
「新年文芸」短歌 尾山篤二郎選
「新年文芸」俳句 西村公鳳選

- 1 小説「年始状」深田久弥
「ふるさとに寄せる」中川善之助
「金沢の正月」尾山篤二郎
「私の初夢」伊藤武雄
3 「一人の爺さんの話」室生犀星
「龍」奥野信太郎
「童話」山の中の花 坪田譲治
「百万石の土地」中谷吉郎
「どこへ行く」森山啓
7 「たつ年の春」佐多稲子
8 「郷土美の成長」谷口吉郎
「正月と因習」正宗白鳥
11 「相変らぬ雑誌文学」正月特別号の文芸誌より「無署名」
「文化的自覚の欠如」長谷川如是閑
「百万石物語」宮本謙吉 10・11 268回完
16 伊藤整氏は無罪―チャタレイ判決(☆記事)
19 「夕刊川柳」山上千太郎選(☆以後継続)
21 「今年の文学界」臼井吉見
22 「性的興奮とワイセツ―チャタレイ裁判について」宮城音弥
25 「堀田善衛の文学」青野季吉
2 「感想」小林秀雄
10 「親族殺し」木々高太郎
14 「春待つ心」山口青邨
16 「大田洋子の『人間檻樓』」平林たい子
21 「盗歌綺談」木俣修
22 「春を呼ぶ小鳥たち」中西悟堂
24 「高田保の思い出」大宅壮一
26 「私と染色」木村雨山

- 26 「文芸時評」河上徹太郎
3 4 「久米正雄を悼む」佐々木茂索
7 「愛国」石塚喜久二 4・26 81回完
11 「ヒロポニズムの諸相」船山馨
「雑誌評」瀬沼茂樹
14 「逆コースの恐怖」三好十郎
16 「このわた集」に就て」小松伸六
21 「彼岸好日」外村繁
23 「大学生気質の今昔」谷崎精二
27 「よろこび」暁烏敏
30 「文学の芽と土」保高德蔵
「童話」ネジのゆくえ」壺井栄
4 1 「川端康成の近業」青野季吉
4 「感動なき小説の横行」本多顕彰
6 「春の岬」三好達治
9 「現代美術展見物記」深田久弥
13 「青踏」を憶う」藤田福夫
19 「幻燈の街」梅崎春生 9・15 150回完
28 「日本のこころ」中谷宇吉郎
「愛欲小説の激減」無署名
5 4 「歴史小説はやり」田宮虎彦
「まさに喧嘩祭り」小松清
9 「俳句と私」沢木欣一
18 「家庭の音楽と美術」野村胡堂
19 「新大岡政談韋駄天菩薩」吉田武三 12・31 175回完
20 「明朝の画人」柳沢健
「破防法下に文学なし」青野季吉
25 「ひとつの証明」佐多稲子
- 27 「風雪の歌」北村小松
30 山本有三氏昨夕石川県入り(☆記事)
31 「女も酒をのむための条件」小松伸六
6 1 加藤楸郎氏が「風」の記念句会に来県(☆記事)
6 「長編小説の隆盛」中村光夫
7 「初夏の小旅」深田久弥
13 「ほたる」吉田弦二郎
15 「空と女」北村小松
17 「文学者の生活」臼井吉見
23 「原爆の娘達」芹沢光治良
「丹羽文雄氏ら一行来沢(☆記事)」
24 「座談会 文壇人大いに語る」(☆出席、久弥・文雄・信子・茂索・靖・勝一郎・鶏太)
7 10 「学毒」日夏耿之介
11 「虫の声」尾崎一雄
23 「コント 海水着」井上靖
29 「朝顔」中本恕堂
8 1 「夏山の遭難」深田久弥
3 「日本の風景」正宗白鳥
4 加能作次郎の碑できる(☆記事)
8 「座談会 加能作次郎その人と作品」(☆出席、季吉・和郎・浩二)
10 「声の魅力」芦田高子
「大事・小事」本多顕彰
「桔梗の花」網野菊
12 「朝焼け富士」山手樹一郎 28・5・25 285回完
19 「混乱期の精神」亀井勝一郎
22 「文学碑はやり」福田清人
9 5 「解散を聞いて」河盛好蔵

- 9 「人情的と人間的と」 臼井吉見
12 「最近の心中事件」 森山啓
12 「北国歌壇」 尾山篤二郎選（☆16・23日も）
13 「女性と選挙」（☆対談 坂西志保、佐多稲子）
14 「議会政治の信頼」 中野好夫
16 「最近の詩集」 荒正人
16 「秋の想い」 金森千栄子
16 「白い奔流」 舟橋聖一 28・4・14 210回完
16 「郷土の栄光の星 木村栄博士のこと」 徳光八郎
20 「チィチィパッパの話」 乾満寿子
21 「パチンコの哲学」 竹山道雄
21 「北国歌壇」 尾山篤二郎選
23 「読み映えせぬ小説群」 西義之
27 「病窓ノート」 久保田正衛 10・5 6回完
30 「死刑囚の歌」 竹内健城
10 童話「トンボのひるね」 坪田譲治
12 「標高三千米の紅葉 秋の槍ヶ岳にて」 深田久弥
14 「歴史書の訂正」 田宮虎彦
14 「不振の農民文学」 無署名
14 「北国歌壇」 尾山篤二郎（☆24・28日も）
19 「文壇消息 佐藤春夫の巻」 無署名
20 「一向変」 久保田正衛 28・3・20 112回完
24 「愛好される荷風文学」 奥野信太郎
26 「軍隊、俘虜生活と読書」 大岡昇平
27 「泉先生のこと」 宮田栄
27 「白秋忌」 日夏耿之介
28 「国体登山に参加して」 深田久弥
- 11 2 「愛染駕籠」 沙羅双樹 28・3・26 144回完
4 「北国歌壇」 尾山篤二郎選（☆7、9、16、18、21、23日も）
7 「歌集流行」 木俣修
7 「俳句どこへ行く」 加藤秋邨
9 「女と電気洗濯器」 神西清
9 「ほん訳と頭」 井上勇
10 「菊久栄」（☆短歌3首） 尾山篤二郎
12 「モーリヤックの文学」 丸岡明
16 「文明の躍進慶賀にたえず」 福田恒存
16 「北国俳壇」 水原秋桜子選（☆18、21、23日も）
18 「三十世紀の人間像」 谷口陸男
21 「獵銃」 井上靖
23 「旅の前」 今日出海
12 1 「『パリの奇蹟』を読む」 金森徳次郎
1 「北国歌壇」 尾山篤二郎選
1 「北国俳壇」 水原秋桜子選
2 「真相箱日本」 中野好夫
7 「師走と文士」 外村繁
9 「句集『北潮』」 西村公鳳
11 「サルトル、カミュ袂別の真因」 小松清
11 「木曾路の旅」 青野季吉
12 「文化人の抵抗と進路」 中島健蔵
18 「欧米人の仏教観」 中村元
19 「火の車雑誌」 草野心平
23 「今年の文学界」 臼井吉見
26 「近頃の歴史小説」 榊山潤
28 「秋桜子句集『残鐘』」 沢木欣一
30 「除夜の鐘」 吉田絃二郎

昭和二十八年

- 1 1 「世界の中の日本人」 中谷宇吉郎
 「夢の実現」 武者小路実篤
 小説「永代の愛」 森山啓
 「新年文芸・短歌」 尾山篤二郎選
 「新年文芸・俳句」 水原秋桜子選
 「大隈会館」(☆短歌5首) 尾山篤二郎
 3 「太鼓持ち人生」 戸田正三
 「工房にて」 高村光太郎
 「新年文芸・川柳」 山上千太郎選
 小説「蛇」 深田久弥
 詩「新年の心」 佐藤春夫
 「福寿草」 正宗巖敬
 4 「新年おめでとう」 佐藤春夫
 「初日」(☆俳句4句) 水原秋桜子
 小説「元旦の恋文」 井上靖
 「広きなり」(☆俳句5句) 中村草田男
 「新しい愛国心について」 石坂洋次郎
 「若き世代の知性にのぞむ」 天野貞祐
 5 「俳句」 水原秋桜子選
 「シナリオ加賀騒動」 村上元三 2・11・27回完
 「短歌」 尾山篤二郎選
 「婚礼」 中川善之助
 6 「加賀ことば」 北村喜八
 「北国歌壇」 尾山篤二郎選(☆11、13、16、18、20、23、25、27日も)
 童話「金槌のひびき」 小川未明
- 11 「絶望しない事」 広津和郎
 「北国俳壇」 水原秋桜子選(☆13、16、18、20、23、25、27日も)
 「初春訪問・室生犀星氏」
 「初春訪問・中西悟堂氏」
 12 「素朴な古都の冬、アテネにて」 宮本三郎
 「あんこう」 中勘助
 16 「努力のうちの楽しさ」 長与善郎
 21 「今年の文壇への期待」 山本健吉
 23 「独立国の心」 中川善之助
 25 世は全集本時代(☆記事)
 27 「手洗い」 北村喜八
 2 6 「北国俳壇」 水原秋桜子選(☆8、10、13、15、17、20、22日も)
 「北国歌壇」 尾山篤二郎選(☆8、10、13、15、17、20、22日も)
 「中国に残した妹」 壇一雄
 13 「文化交流と翻訳」 吉田健一
 「三好達治の歩んだ道」 阪本越郎
 15 「国語国字の回想」 保科孝一
 17 「死後の生活」 梶井重雄
 19 「一日税務署長」 深田久弥
 20 「なかなか書けぬ次第」 文学と政治の谷間」 なかのしげはる
 22 「無界人自在人」 藤原鉄乗
 27 「斎藤茂吉翁の思い出」 土屋文明
 28 「斎藤茂吉大人」 深田久弥
 3 1 「北国歌壇」 尾山篤二郎選(☆6、10、15、20、27、29日も)
 「映画づくり」 梅崎春生
 2 「多喜二の文学遺産と現代文学の課題」 中野重治
 3 (☆講演要旨)

- 3 「新しい人間としての百合子の生活と文学」佐多稲子
(☆同右)
- 「北国俳壇」水原秋桜子選(☆6、10、20、27、29日も)
- 6 「今月の創作から」梅崎春生
- 10 「人間の改造」谷川徹三
- 11 「恐ろしいこと」火野葦平
- 15 「ヨーロッパから帰って」宮本三郎
- 18 「春さきの庭」円地文子
- 20 「川端康成著『再婚者』」白井吉見
- 27 「戯作金沢トンソウ記」小松伸六
- 28 「真空地帯」の野間さんけさ来県(☆記事)
- 4 1 「北国歌壇」尾山篤二郎選(☆3、7、10、12、14、17、26日も)
- 3 「北国俳壇」水原秋桜子選(☆7、10、12、14、17、26日も)
- 4 「戯曲友禅斎」久保田正衛 5・1日 20回完
- 10 「アメリカの危機」長与善郎
- 14 「貝殻投票を許せ」大仏次郎
- 「暴力への悲しき抵抗」芳賀檀
- 15 「天にひらく窓」富田常雄
- 17 「近頃不愉快な話」中野好夫
- 19 「山桜」田部重治
- 26 「肥えてきた民衆の目」芹沢光治長
- 5 3 「加能春耕景」宮本常一
- 「北国歌壇」尾山篤二郎選(☆5、8、10、17、24、29日も)
- 「北国俳壇」水原秋桜子選(☆17、24、29日も)
- 4 「夕刊随想・流行歌雑感」三好達治
- 5 「こどもの日に寄せて・精神薄弱児対策」松原太郎
- 7 「芸術と宗教」出口虎雄
- 8 「高光一也君を讀う」太田耕治
- 18 「子供の読物」河盛好藏
- 26 「濡れ燕」子母沢寛
- 31 「とらわれぬ精神——岸田国士さんのこと——」福田恒存
- 6 2 「心のひと堀辰雄」室生犀星
- 「北国歌壇」尾山篤二郎選(☆5、10、12、14、21、23、26、28日も)
- 「北国俳壇」水原秋桜子選(☆5、10、12、14、21、23、26、28日も)
- 5 「今月の文学誌」白井吉見
- 8 「夕刊随想・父吉田茂のこと」吉田健一
- 9 「書評・芸術の運命」山本健吉
- 12 「カフカと現代文学」山下肇
- 14 「銀河依然その他」北市都黄男
- 16 「当りまえのこと」伊藤武雄
- 「書評『秘められた日記』」小松清
- 21 「ウチナダを見る」白井吉見
- 23 「初めて先生になる」深田久弥
- 26 「七月号総合雑誌展望」串田孫一
- 27 「生活と政治」佐多稲子
- 28 「知識労働者の誇り」戒能通孝
- 7 1 「能美郡のツバメ」中西悟堂
- 「アメリカの宗教教育について」清水忠次郎
- 4 「南極の果て」北村小松
- 「柿八年——北国歌壇のために——」尾山篤二郎
- 「山開き」田部重治
- 「小説評価のあいまいさ」田宮虎彦
- 11 「開国百年におもう」服部之総
- 「目立つ新人の逃避的傾向——文壇上半期の回顧——」白井吉見
- 「東洋的確信」柳宗悦
- 「文壇ゴシップの横行」平田次三郎

- 14 「金魚の自由」細見綾子
15 「子供たちの幸福」森山啓
16 「平和と子供」坪田譲治
18 「トーマス・マンの問題から」青野季吉
22 「いで湯の暁」黒田桜の園
29 「ふるさとの海」上林暁
8 「民主塗りと大達文政」宮城音弥
1 「基地女性の自覚」神西清
8 「川祭」大谷藤子
1 「人間の自由について」本多顕彰
「異色ある作家」芥川賞の安岡章太郎」北原武夫
「夏休」中村汀女
「年々歳々災相似たり」中野好夫
2 「夏のおしゃれ読本」中原淳一
3 「保育所という場所」水芦陸郎
5 「文化郷愁」室生犀星
「ルポ『内灘』への不満」森直弘
「親鸞のころ」佐々木象山
「海辺の花」中里恒子
8 「ひぐらし」萩原井泉水
12 「人間の愚かさ」今日出海
「ローマの素人画家」宮本三郎
「三島由紀夫の盲点」文芸寸評」花田清輝
15 「湖」中村汀女
「脳涼紀行」峯岸義一
18 「小さな事・大きな事」田宮虎彦
19 「北国歌壇」尾山篤二郎選
「金沢のかなしみ」深田久弥
- 19 「文芸寸評」花田清輝
22 「夕刊川柳」山上千太郎選
「初秋の感想」川田順
「教科書の著作権確立」村野四郎
「スリルの分析」木々高太郎
9 「北国歌壇」尾山篤二郎選
4 歌に結ばれた折口信夫父子(☆記事)
6 「農民文学はどうあるべきか」伊藤永之介
11 「体当りの文学」火野葦平『花と竜』中島健蔵
16 「尾崎一雄を訪う」直江初雄
「二つの神」長田恒雄
「一つの国民性」坂西志保
18 「秋の山脈」田部重治
「日本古典の映画化」池田亀鑑
「いとしい日本」深尾須磨子
「政治への不信ということ」(☆座談会、出席深田久弥他)
19 「北国俳壇」水原秋桜子選
21 「李ラインと再軍備論」中野好夫
23 「秋分の日によせて」暁烏敏
25 「善意の人」花田清輝
28 「文芸時評」白井吉見
10 「ケラーについて」西義之さんへの抗議」伊藤武雄
1 「書評デュガール『アンドレ・ジイド』」中村真一郎
3 「ケラーについて『居直りの釈明』」西義之
「新聞と文士」木村毅
6 「北国歌壇」尾山篤二郎選(☆8、23、28、30日も)
7 「北国俳壇」水原秋桜子選(☆14、31日も)
「作家から見た暁烏敏」藤田福夫

- 7 「暁烏敏の人間係」藤原鉄乗
 「同人誌、サークル誌の問題」中村慎吉
 「翻訳文学流行論」秋山英夫
 11 「第二回全国俳句大会作品抄」高浜虚子選
 「ヨーロッパ点描」火野葦平
 「小心翼々」花田清輝
 「ロンドン今昔」吉田健一
 13 「秋の電話」幸田文
 14 「まつたけ・サンマ」尾崎一雄
 「葦笛——自作に対する誤解をとく」森山啓
 「秋色」和田伝
 17 「現代短詩型文学の展望」岡部文夫、沢木欣一、朝倉新太郎
 21 「文学と宗教」丹羽文雄
 27 「朝の空を見つつ」長沢美津
 28 「俳句大会に出席して」水原秋桜子
 29 「播磨屋閑談」中村吉右衛門
 11 「読書雑記」日夏耿之介
 1 「失われゆく日本」バーナード・リーチ
 「モデル問題」中島健蔵
 「喜多六平太さんのこと」高橋義孝
 3 「らしくない文化の日」今和次郎
 「文化の日を迎えて」武者小路実篤
 5 「北国歌壇」尾山篤二郎選（☆13、15、18、20、22、24、27、29日も）
 6 「北国俳壇」水原秋桜子選（☆14、17、26日も）
 7 「全国俳句歌誌展特集」藤田福夫、沢木欣一
 9 「凶作今昔」長谷川伸
 14 「混乱への抵抗像」亀井勝一郎
 「言葉の魔術」鶴見俊輔
- 16 秋声文学碑完成（☆記事）
 18 「父と文学碑」徳田一穂
 「秋声文学碑のこと」谷口吉郎
 「御坂峠の建碑式」河上徹太郎
 「古典と現代」平田次三郎
 20 徳田秋声文学祭（☆記事）
 「永井荒風と川端康成」十返肇
 21 「文学と農村」森山啓
 25 「革命か反抗か」花田清輝
 28 「初冬の気分」上林暁
 12 1 「北国俳壇」水原秋桜子選（☆5、17、26、29日も）
 2 「北国歌壇」尾山篤二郎選（☆3、6、20、25、30日も）
 5 「松川事件特集」谷口陸男、深田久弥、宮田栄
 9 「断層の世代——第三の新人群」武田繁太郎
 「生理と道徳」花田清輝
 16 「京阪拾遺」久保田正衛 20日 12回完
 「一九五三年の回顧」宮柊二、石塚友二
 19 「通人とホーカン」花田清輝
 22 「クリスマスと元日」長与善郎
 23 「一九五三年の回顧」平野謙
 「歳晚雜記」尾崎一雄
 26 「文芸時評」城恵爾
 「ユーモアの他見男さん」安川久留美
 30 「餅の話」山上千太郎